

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

・実施概要

日時：2月18日 18時30分～20時30分



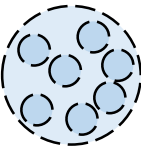
会場：オンライン

人数：10人

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

- ・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>
- ・運営の仕組みのパターン比較

比較の視点	Aパターン	Bパターン	Cパターン
イメージ図 ・概要	 <p>・各取組をルールだけでゆるく縛る (例: 月1回の定例会で進捗確認する)</p>	 <p>・事務局が各取組の連絡調整を行う</p>	 <p>・1つの団体が各取組を含むすべてを直接行う(例: 幸区、多摩区のSDC)</p>
組織としてのわかりやすさ (市民にとっての使いやすさ)	×	△	○
運営への参加しやすさ	○	△	×
運営の始めやすさ	○	△	×

・前提として検討が必要な課題

- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指してる?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ②<今後の検討の進め方について>

分類	意見
◎【最も多かった意見】	・まず運営の仕組みを考える必要がある
○【他の視点の意見】	・今できることから始めることが大事。それを洗い出してみてもどうか。並行で形を決めていくのはどうか。
☆【検討を進める前提として確認が必要な意見】	・既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○既存団体・事業との連携

・Slack「資源情報共有チャンネル」投稿情報まとめ

分類	団体・事業		概要
	【情報収集・発信、ネットワーク化、相談支援を実践する機関とそのデータベース】	【市民団体の相談支援を担う機関】	
①法人	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき市民活動センター(データベース:つなぐっとKAWASAKI) ・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター ・川崎市国際交流協会(川崎市国際交流センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき市民活動センター(データベース:つなぐっとKAWASAKI) ・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター 	法人化されており組織体制が整い、活動内容は明確で複数存在
②行政又は行政バックアップの団体	<ul style="list-style-type: none"> ・中原区内地域包括支援センター(データベース:川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト) ・中原区役所地域みまもり支援センター ・中原区まちづくり推進委員会(令和3年度で解散予定) ・大企業と中小企業の知的財産マッチング支援 		行政の一機能として組織化され、活動内容は、二つの支援センターはそれぞれ専門的で明確(特化型)。まちづくり委員会は包括的で自由度が高い(包括型)
③市民団体	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき若者会議 ・かわさき福祉情報サイト ・趣味なび(川崎市の教室一覧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎プロボノ部 	市民個々人のボランティアで組織運営がなされ、活動内容は、プロボノ部は特化型でわかもの会議は包括型

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

・既存団体・事業との関わり方の手法について（Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より）

- ① 既存団体の情報をまとめてデータベース化してSDCメンバーや区民も自ら調べられるように公開する（データベース化、情報公開）
- ② 市民からの相談に対して、SDCメンバーが適切な既存団体を紹介する（マッチング、コーディネート）
- ③ SDCメンバーが事務局となって既存団体を束ねた協議会を立ち上げ、団体毎の役割分担などの整理や、区民にとって分かり易くなる様に各団体と調整を図る（協議会）

・SDCの情報発信に関する意見（Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より）

既存団体で発信されている情報以外の情報を取り扱う必要がある。

→情報の収集発信をテーマとして、わかもの会議的なゆるいつながりを持った集団として、まずは立ち上げるという道があるのでは。

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○2月18日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

●意見交換①＜前回の感想＞

- ・既存団体・事業との話について、すみ分けという意図ではなく、既存のデータベースをどうか活用するかという趣旨。わかりやすくするためにまたデータベースを作ること疑問。たくさんデータベースがあると市民が混乱する。同じことの繰り返しにたくない。
- ・始めるにあたって、どのくらいのレベル感でスタートするのがよいか意見聞きたい。
- ・Aパターンは、まさにコスギアート（80団体）。口座や団体規約はあるが、関係性は緩くフレキシブルで、参加のハードルが低く、いくつもワーキングが立ち上がっている。一方で全体をまとめる際、ハブになる人に負担はかかる。だけど、民主的でやっていて楽しい。法人化すると組織の中にヒエラルキーができる傾向。楽しくやるんだったら、まずはAパターンで、緩くスタートしてみても。Aなら場所がいらない。slackは使いにくいので、FacebookやLINEでやりとりが◎。Bパターンならキーパーソンがキーとなる場所に必要。
- ・AとBパターンは、きっちりとは分けられないのでは。Aパターンでも定例会の案内等を行う事務局的なものが必要。「B寄りのA」などがあると思う。また、ここで目指しているものの名前を「ソーシャルデザインセンター」とするかも検討必要。

- ・みんなが同じ方向を向いていけるようにしたい。ABCのパターンに縛られる必要はないと考えている。
- ・関心を持ってもらうため、市民からどう見えるかはきちんとしないといけないところ。まず何をどうやっていくかを詰めていかないと始まらないと思う。SDCの目的の一つはコミュニティ活動の基盤になるのだが、成功事例を作っていけないと、外から見たときに伝わらない。外部の窓口はきっちり作りつつ、まずは今のメンバーで、3~4月で、何かと何かを結び付けて活動を生み出していくといったことを行う必要があるのでは。その中で運営体制も定まっていくのではないか。

●意見交換②＜SDCの運営の仕組みについて＞

- ・解決できない課題は山積しているが、できることから始めていく段階だと認識している。これだけは外せないという視点があれば教えてほしい。
- ・コスギアートはフレキシブルな組織なので、リーダー不在でも開催できた。ただ、パンフレットや感染対策グッズをどこに保管するか、納品時の受入場所など、やはり「場」は大切。市民館のカフェ跡地にチラシの配架場所でも構わないのではと嬉しい。

第3回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

・場所が必要という話をとって、すでに民間のレンタルスペースや市民活動センターのレンタルスペースがあったりと、やはり既存のものとの共存をどうしていくか、検討していく必要はあるかと思う。

・SDCは主体的に活動をしないイメージを持っている。Bパターンの点線部の中に、企画段階の薄い丸がAパターンのように入っているイメージ。かわら版はSDCのメンバーとの連携から生まれたもので、produced by SDCというイメージ。既存団体の活用については、既存のデータベースがなく、SDCとしてストックしたいものはデータベース作る、としたらよいのではないか。

・同じ活動が世の中に1つだけというのも疑問。行政は重複を嫌うが、それぞれに顧客がいれば、同時に存在してもいいと思う。すべての人に刺さる広域ネットワークを作るのは難しいと思っている。

・初めてSDCの話を聞いた時、全てをカバーする組織をイメージした。常駐するスタッフは、何を聞かれても案内できる。理想かもしれないが、SDCは、新たにデータベースを作るというより、問合せに対して、完璧でなくても今あるデータベースを案内するイメージ。

・自分事として考えると、「地域に自分はどのように役に立てるか」と課題意識。そういった人の視点で、SDCがどのようなものだとよいか。気軽さ・ハードルの低さ、何かあったときに相談・アクセスできる存在。正直、市民活動センターは行きにくい。市民側の接点となる存在だと良いのでは。

・ハードルの低さが大事。参加も運営も。そのなかで生み出されるものが創発だと思っている

・1人でオールマイティに説明できなくても、SDCのメンバーそれぞれの強みで補いカバーしていければ。既存の団体がやっていることを、SDCのメンバーは把握しておいた方がよい。そこから既存団体との重複感がわかるようになる。ゲストスピーカーを呼ぶ等するとよいのでは。

・知らないところがあるのか、何が一緒にできるのわからない。皆さんと勉強する機会も作れるとよいと思う。

気軽さが大切。その中でまず何ができるのか考えていきたい。次回から具体的な取り組みの検討に。

●意見・感想

・slackにデータベースを投げても親しみ湧かないと思う。まずは、包括などに顔出しで説明してもらおうと親近感が湧くと思う。取組の検討と平行してになると思うが、是非区役所から依頼してほしい。

・とても勉強になった。子どもが参加できる部分は残してほしい。友達も誘えるようにしたい。